

(高齢者用)

高齢者肺炎球菌予防接種を受ける前によくお読み下さい。

== 福岡市 ==

一般的注意

※高齢者肺炎球菌予防接種は、接種を受ける法律上の義務はないため、有効性や副反応などについてよく理解された上で、自らの意思で接種を希望される方のみに行います。

※予防接種の安全性の確保と、接種後の副反応被害を回避するため、健康状態や体質などをきちんと医師に伝えましょう。

※接種済証は、確実に保存して下さい。

気にかかることや分からないことがあれば、予防接種を受ける前に接種する医師やかかりつけの医師にお尋ねください。

高齢者肺炎球菌予防接種の有効性

高齢者肺炎球菌予防接種は、肺炎球菌を原因とする肺炎の発病防止や特に重症化防止に有効であることが確認されています。

肺炎球菌には、100種類以上の血清型があり、定期接種で使用されるワクチンは、そのうち20種類の血清型を対象としています。この20種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症(※)の原因の約5～6割を占めるとい研究結果があります。

また、定期接種で使用されるワクチンは、血清型に依らない侵襲性肺炎球菌感染症全体の3～4割程度を予防する効果があるという研究結果があります。

※侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

予防接種を受ける前に

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(1) 予防接種を受けることができない人

①明らかに発熱のある人

一般的に、体温が37.5℃以上の場合を指します。

②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。

→→裏面へ続きます

③ジフテリアトキソイドによって、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな人

※「アナフィラキシー」というのは、通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐(おうと)、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

④その他、医師が不適切な状態と判断した場合

(2) 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

①心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する人

②予防接種を受けて2日以内に発熱の見られた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人

③過去にけいれんの既往のある人

④過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人

⑤接種する接種液の成分やジフテリアトキソイドに対してアレルギーを呈するおそれのある人

⑥血小板減少症、凝固障害、抗凝固療法を受けている人

その他

(1) ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシー、痙攣(熱性痙攣含む)、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
30%以上	疼痛・圧痛*(59.6%)、筋肉痛(38.2%)、疲労(30.3%)
10%以上	頭痛(21.7%)、関節痛(11.6%)
1%以上	紅斑、腫脹

* ワクチンを接種した部位の症状

(2) 予防接種による健康被害の救済措置

予防接種を受けた人が、疾病にかかり、障がいの状態となり、又は死亡した場合において、当該疾病、障がい又は死亡が当該予防接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、救済が行われます。

申請に必要な手続きなどについては、お住まいの区の健康課にお問い合わせください。